

# 環境経営レポート

平成30年度

〈対象期間:平成30年4月~平成31年3月〉

### 黑崎白土工業株式会社

令和元年6月14日

#### 黒崎白土工業株式会社 環境経営レポート 平成30年度

当社では、平成20年12月に環境システムを構築して、環境保全活動をスタートしました。本レポートで活動を紹介するのは11回目の発行となります。



《表紙写真》

- ・ 二王子岳山頂から見た飯豊連峰
- 撮影 小戸工場 澁谷 高宏

#### ■ 目次

1.	組織の概要	page 2
2.	環境経営方針	3
3.	対象範囲等	4
4.	環境経営目標及びその実績	5
	目標実績	5 6
5.	環境経営計画と取り組み結果の評価、 次年度の取り組み内容	9
6.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価 並びに違反、訴訟等の有無	10
7.	環境活動の紹介	11
8.	代表者による全体評価と見直しの結果	14

### 組織の概要

#### ■ 事業所名及び代表者氏名

黒崎白土工業株式会社

代表取締役社長 黒﨑 英和

#### ■ 事業活動の内容

• 法人設立年月日 昭和32年7月30日

• 資本金 10,000千円

• 事業内容 ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着剤などの製造・販売

#### ■ 所在地

本社 〒957-0052 新潟県新発田市大手町1-14-15

TEL: 0254-22-1170

• 小戸工場 〒957-0345 新潟県新発田市小戸2331

TEL: 0254-28-5930

#### ■ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 小戸工場長 渡邉義明

担当者連絡先 小戸工場 総務部長 山坂 修 TEL: 0254-28-5930

Eメール: o-yamasaka@kurosaki-hakudo.jp

#### ■ 事業の規模等

• 従業員数 88名

(平成31年4月末現在)

• 床面積合計(m)

_	27年度	28年度	29年度	30年度
合計 (内訳)	6,069.7	6,600.8	6,952.2	7,060.2
工場製造部門	5,090.1	5,621.2	5,972.6	6,080.6
工場補助管理部門	822.8	822.8	822.8	822,8
本社部門	156.8	156.8	156.8	156.8

※30年度の工場製造部門床面積の増加は、資材倉庫の 増築による増加となります。

#### ■ 事業年度 4月~3月

#### • 売上高



### 環境経営方針

#### 一基本理念一

当社は創業以来、粘土鉱物資源の恵みを受けて、特長ある無機化学製品の提供をめざしてきました。これまで資源と共に歩んだ私たちは、地球環境の課題を認識して、いま求められている環境への負荷低減に継続的に取り組み、環境との調和を図り積極的な環境保全に努めます。

さらに、「安全は何よりも優先する」「資源は有限である」「人に迷惑をかけない」を以って、安全操業・資源活用・責任行動を基に、企業としての社会的責任を果たし、無機化学製品を通じて豊かな社会づくりに貢献していきます。

#### —行動指針—

当社は基本理念に基づいて行動指針を定め、事業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減のため継続的な環境保全活動を行います。

- (1) 事業活動の環境負荷低減活動の重点実施事項を下記のとおり設定する。
  - ① 省資源・省エネルギーを実践し、電気・化石燃料・水・紙の消費量減による二酸化 炭素排出量の削減に努める。
  - ② リサイクルを推進し、廃棄物の排出量の削減に努める。
  - ③ 環境に配慮した製品の開発に取り組む。
  - ④ 化学物質の適正管理および管理体制の徹底に努める。
  - ⑤ 生物多様性保全活動の推進を図り環境保全に努める。
- (2) 環境関連法規制を遵守すると共に、環境汚染の予防を推進し、地域の環境保全に努める。
- (3) 環境経営システムを構築・運用して、全従業員参加で環境負荷の低減を継続的に取り組む。
- (4) 地域の環境活動に積極的に参加する。
- (5) 全従業員に環境経営方針・環境保全状況を含む環境教育を行い、環境意識の向上に努める。
- (6) 環境への取り組みを環境経営レポートにより全従業員および外部に公表し、環境コミュニケーションに努める。

平成20年11月25日制定 平成22年10月12日改訂 平成24年10月22日改訂 平成25年 6月24日改訂 令和 元年 6月12日改訂

黑崎白土工業株式会社 代表取締役社長 黒崎 英和

### 3. 対象範囲等

#### ■ 対象とする組織

#### 実施の役割分担

実施体制は、各自の役割、責任及び権限を 以下のように定めている。

#### 代表者(社長)

- ① EA21の最高責任者
- ② 環境経営方針の策定
- ③ 経営資源(人・設備・費用)の準備
- ④ 環境管理責任者・内部監査員の任命
- ⑤ 実施体制の構築
- ⑥ 代表者による評価と見直し
- ⑦ 以下の承認

  - ・環境経営目標、環境経営計画及び環境経営マニアル ・環境への負荷及び環境への取組の自己チェックの結果
  - ・環境関連法規などの取りまとめ表
  - ・外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
  - 問題点の是正処置及び予防処置の結果
  - 内部監査実施計画及び内部監査実施報告
  - ・環境経営レポート

#### 環境管理責任者(小戸工場長)

- ① 環境経営システムを構築し、維持する
- ② 環境推進委員会の開催
- ③ 環境経営計画に基づく活動取組状況の代表者への報告
- ④ 以下の文書類の作成・実施
  - 環境関連法規などの取りまとめ表
  - 環境への負荷及び環境への取組の自己チェックの結果
  - 環境経営目標及び環境経営計画の作成と達成状況と評価
  - ・環境経営マニアルの作成・見直し
  - ・外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
  - 問題点の是正処置及び予防処置の結果
  - ・代表者による全体の取組の評価と見直し
  - ・環境経営レポート
- ⑤ 以下の承認
  - 環境関連法規などの遵守状況の結果 • 実施体制
- 環境教育計画 ・ 事故及び緊急事態の想定 結果及びその対策

製造部門

環境目標取組推進者 環境目標取組責任者

第一課

第二課

第三課

第四課

工務課

環境推進組織図

黒崎白土工業株式会社 本社および小戸工場の当社全体とする。

代表者(社長)

環境管理責任者

品管•研開部門

環境目標取組責任者

品質管理課

技術開発部

• 緊急事態訓練計画

環境管理会議

環境推進委

環境推進委

事務·本社部門

環境目標取組責任者

総務課

業務課

本 社

内部監査責任者

内部監査員

- 環境教育の実施記録
- ・環境上の緊急事態の対応に関する施行及び訓練の結果
- ・組織が指定した手順書

#### 環境推進委員会事務局

- ① 環境推進委員会の事務局
- ② 環境管理責任者の補佐業務
- ③以下の文書類作成・実施
  - ・環境関連法規などの遵守状況の結果作成 ・実施体制作成・見直し • 環境教育計画及び緊急事態訓練計画
  - 事故及び緊急事態想定 結果及びその対策 • 環境教育の実施記録
  - ・環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練の結果
- ④環境関連文書の保管、配布及び廃棄

組織が指定した手順書の作成・見直し

#### 内部監查責任者

- ①内部監査実施計画の作成
- ②内部監査結果の報告

### 環境目標取組推進者

- ① 自部門の環境経営目標の実施計画の作成・実施の支援
- ② 自部門の実施するための手順書の作成支援
- ③ 部下に対して取り組みの指示及び周知と環境教育の推
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境経営目標の実施計画、進捗管理支援

#### 内部監査員

- ① 内部監査の実施
- ② 内部監査での是正措置・予防措置要求の発行
- ③ 内部監査での是正、予防処置内容確認

#### 環境目標取組責任者

- ① 自部門の環境経営目標の実施計画の作成と実施
- ② 自部門の実施するための手順書の作成
- ③ 部下に対して取り組みの指示および周知と環境教育の推進
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境経営目標の実施計画の進捗管理

#### 環境内部コミュニケーション

- ① 環境経営管理会議
- a) 代表者・環境管理責任者・部長・事務局で構成し、年2回(5月・10月)及び必要に応じて随時、代表者が招集する。
- b) 環境経営方針及び環境経営目標を含む環境経営システムの改善・見直し及び変更の必要性の評価について審議する。
- ② 環境推進委員会
- a) 環境管理責任者・部長・環境目標取組推進者・環境目標取組責任者及び環境管理責任者が必要と認めた者で構成し、月 1回環境管理責任者が召集する。
- b) 環境経営目標、環境経営計画の進捗管理及び環境に関する問題事項を審議・情報交換し意思疎通を図る。
- c) 環境目標取組責任者は、環境推進委員会の内容を環境ミーティング時に部下に周知する。

#### ■ 対象とする活動

ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着剤などの製造・販売に関する全ての活動を対象とする。

### 4. 環境経営目標及びその実績

#### ■目標

環境経営目標項目	基準年度 (27年度)	環境経営目標値			
琼虎社名日标填日 	総製品生産量 51,086.0 t	28年度	29年度	30年度	31年度
電気使用量の削減 (kwh/総製品生産量 t・年)	112.8	△0. 1% 112. 7	△0. 2% 112. 6	(基準年度) 116.7	△0.1% 116.6
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品生産量 t・年)	2102. 6	△0. 1% 2, 100. 5	△0. 2% 2, 098. 4	△0. 3% 2, 096. 3	△0. 4% 2, 094. 2
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO <sub>2</sub> /総製品生産量 t ・年)	204. 6	△0. 1% 204. 4	△0. 2% 204. 2	△0. 3% 204. 0	△0. 4% 203. 8
廃棄物排出量の削減 (kg・年)	1, 064	△0. 3% 1, 061	△0. 6% 1. 058	△0. 9% 1, 054	△1. 2% 1, 051
総排水量の削減					
・上水 (Q/総製品生産量 t・年)	19. 8	△0. 1% 19. 8	△0. 4% 19. 7	∆0. 7% 19. 7	△1% 19.6
・地下水 ( Q /総製品生産量 t ・年)	13. 4	△0. 1% 13.4	△0. 2% 13.4	△0.3% 13.4	△O. 4% (基準年度) 14.1
コピー用紙使用量の削減(枚・年(A4版換算))	73, 625	△0. 3% 73, 404	∆0. 5% 73, 257	△0. 7% 73, 110	∆0. 9% 72, 962
環境配慮型の製品開発の推進(点数・年)	130	130	130	130	160
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)	16, 766	+2% 17, 101	+4% 17, 437	+6% 17, 772	+8% 18, 107

- 注)1. 「電力使用量の削減」、「化石燃料使用量の削減」、「二酸化炭素排出量の削減」及び「総排水量の削減」の 環境目標については、当社における総製品生産量当たりの原単位としました。
  - 2. 二酸化炭素排出量の削減では、購入電力の二酸化炭素調整係数0. 523kg-CO2/kwh (東北電力㈱ 2017年度調整係数)を用いて算定しています。
  - 3. 「環境配慮型の製品開発の推進」は現在、凝集補助剤の開発及び新たな製品の企画・調査を対象としており、 各開発段階に置ける評価点を次のようにしています。

ステップ1 製品企画、調査・・・30点

ステップ2 製品研究開発、設計・・・60点

ステップ3 試作品製造、改良・・・80点

ステップ4 上市、量産・・・100点

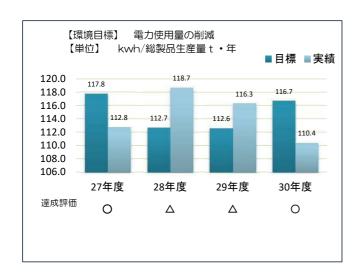
- 4. 「地下水使用量の削減目標値」について、環境変動を加味して、目標値を新たに設定しました。
- 5. 「河川水」の使用はありますが、主に消雪に使用している為、監視項目とし、目標設定をしておりません。

#### ■実績

平成30年度 実績

	環境経営目標項目			目標	実績 (30年度) 総製品生産量 61,170.1 t	達成評価
電気使用	量の消	削減 (kwh/総製品生産量 t ・年)	112. 8	△0.3% 116.7	△2. 1% 110. 4	0
化石燃料值	吏用歸	量の削減 (MJ/総製品生産量 t ・年)	2, 102. 6	△0. 3% 2, 096. 3	∆3. 4% 2, 031. 9	0
二酸化炭素抗	非出量	dの削減(kg-CO2/総製品生産量 t・年)	204. 6	△0. 3% 204. 0	∆3. 0% 198. 4	0
		二酸化炭素実排出量(kg-CO <sub>2</sub> /年)	10,579,760.20		12,138,603.76	
廃棄物排出	出量(	D削減 (kg・年)	1, 064	△0.9% 1,054	△23. 2% 817. 5	0
総排水量		上水 ( Q /総製品生産量 t •年)	19. 8	△0. 7% 19. 7	+1. 0% 20. 0	Δ
減量   の	•	地下水 ( ℓ /総製品生産量 t • 年)	13. 4	△0. 3% 13. 4	+3. 7% 13. 9	Δ
コピー用紙使用量の削減(枚・年(A4版換算))		73, 625	∆0. 7% 73, 110	+3. 1% 75, 875	×	
環境配慮型の製品開発の推進(点数・年)		130	130	130	0	
生物多様性	 生の打	推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)	16, 766	+6% 17, 772	+24. 9% 20, 946	0

(注) 二酸化炭素排出係数は、2017年 東北電力㈱調整係数0.523kg-CO2/kwhを使用しています。 製品倉庫の増設により、原単位の計算分母を「総製品出荷量」から「総製品生産量」へ変更しました。 グラフについて、目標・実績数値を4カ年分変更しました。



	27年度	28年度	29年度	30年度
月標	△1.4%	△0.1%	△0.2%	△0.3%
日际	117.8	112.7	112.6	116.7
<del>-</del>	△0.5%	+5.2%	+3.1%	△2.1%
実績	112.8	118.7	116.3	110.4

●工場に設置した電力監視装置により機械に係る 負荷の低減に努め、また、生産工程で発生する ロスを抑えることにより原単位を削減しました。

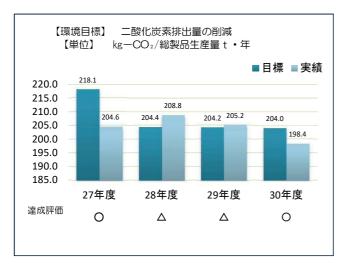
※ 達成評価 O: 目標達成  $\Delta:$  努力したが未達成  $\times:$  目標未達成

		石燃料使用量 J/総製品生産		■目標■実績
2,300.0 2,250.0 2,200.0 2,150.0 2,100.0 2,050.0 2,000.0 1,950.0	2,259.1	2,117.5	2,098.4 2,084.4	2,096.3 2,031.9
達成評価	27年度 〇	28年度 △	29年度 〇	30年度

	27年度	28年度	29年度	30年度
月標	△1.4%	△0.1%	△0.2%	△0.3%
日标	2,259.1	2,100.5	2,098.4	2,096.3
<b>□</b>	∆3.2%	+0.7%	△0.9%	∆3.4%
実績	2,102.6	2,117.5	2,084.4	2,031.9

●乾燥炉の効率的な操作を行い、重油の使用量を 抑え、また、生産工程で発生するロスを抑える ことにより原単位を削減しました。

※ 達成評価 O: 目標達成  $\Delta:$  努力したが未達成  $\times:$  目標未達成



	27年度	28年度	29年度	30年度
月標	△1.4%	△0.1%	△0.2%	△0.3%
日际	218.1	204.4	204,2	204.0
実績	△7.5%	+21%	+0.3%	∆3.0%
夫領	204.6	208.8	205.2	198.4

●二酸化炭素排出係数を 東北電力㈱2017年度調整係数とし、4カ年分を変更しました。 目標値は達成しました。



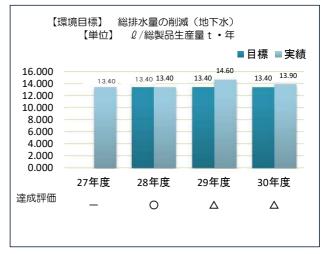
	27年度	28年度	29年度	30年度
日標	△2.0%	∆0.3%	△0.6%	△0.9%
	1,966	1,061	1,058	1,054
実績	△47.0%	△2.4%	△17.3%	△23.2%
天順	1,064	1,038	0,088	817.5

●継続して部署別で廃棄物排出量削減目標値を掲げ、活動を行うことで、削減管理意識が一層向上し目標を達成しました。



	27年度	28年度	29年度	30年度
日標	△2.2%	△0.1%	△0.4%	△0.7%
日標	22.4	19.8	19.7	19.7
実績	△9.2%	0.0	+2.0%	+1.0%
夫領	19.8	19.8	20.2	20.0

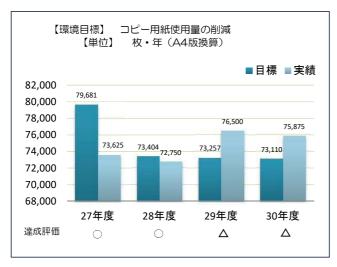
●熱中症対策として、工場屋根からの輻射熱を抑える為に使用しました。また、冬季の凍結防止対策にも使用した為、目標を達成できませんでした。



	27年度	28年度	29年度	30年度
	_	△0.1%	△0.2%	△0.3%
目標	_	13.40	13.40	13.40
実績	_	0.0	+9.0%	+3.7%
夫領	13.40	13.40	14.60	13.90

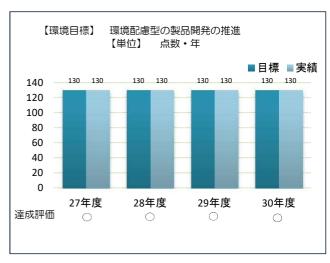
●熱中症対策として、工場屋根からの輻射熱を抑える為に使用しました。また、冬季は凍結防止対応で例年以上に使用した為、目標を達成できませんでした。

※ 達成評価 〇:目標達成 Δ:努力したが未達成 ×:目標未達成



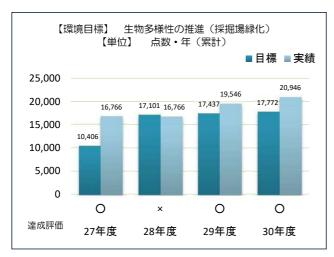
	27年度	28年度	29年度	30年度
月標	△5.0%	△0.3%	△0.5%	△0.7%
日际	79,681	73,404	73,257	73,110
#	△12.2%	△1.2%	+3.9%	+3.1%
実績	73,625	72,750	76,500	75,875

●書類のペーパーレス化を進めてきましたが、印刷 物増加により目標を達成できませんでした。



	27年度	28年度	29年度	30年度
目標		_	_	_
日际	130	130	130	130
<b>-</b>	_	_	_	_
実績	130	130	130	130

●進めていた新製品の上市が成され、引続き、酸性 白土の特徴を生かした製品開発を進めています。



	27年度	28年度	29年度	30年度
月標	+9%	+2%	+4%	+6%
日信	10,406	17,101	17,437	17,772
実績	+75.6%	0.0%	+16.6%	+24.9%
天順	16,766	16,766	19,546	20,946

●法面形成が完了した場所から計画的に緑化を実施しています。

### 5. 環境経営計画と取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容

環境経営計画については、次年度も継続・一部見直し実施して取り組みを行います。

環境経営活動計画	実績評価			
宋泉粧呂泊期司 世	工 場 (製造)	品 管 研 開	事務本社	取り組み
二酸化炭素の削減				
電力使用量・使用料金の削減				
①休業日は、動力盤の元ブレーカーを切り、待機電力を減少させる。	10.0 10.0	-	_	継続
②自然採光を取り入れる事により、不要な照明を消灯する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
③照明器具、小型モーターの更新時は省エネタイプを採用する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
④エアー配管からの漏れに注意を払う。	10.0 10.0	-	-	継続
⑤機械設備の異音や発熱に日頃から注意を払い、電動機の過負荷をおさえる。	10.0 10.0 10.0	-	-	継続
⑥工場・管理室・事務所等の不要な照明は消灯する。	10.0 10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
⑦管理室・事務所等の冷房室温管理(冷房28℃・暖房20℃)を徹底する。	10.0	9.6	10.0	継続
8使用電力が超過にならないように作動する機械を調整する。	9.8	9.6	9.9	継続
<ul><li>②各工場の電気使用量が電力計を超えないように調整する。</li></ul>	10.0	-	-	継続
七石燃料使用量の削減	10.0	-	-	# <b>™</b> ####
101mm科使用量の削減 ①品質規格内での製造を心掛け、過乾燥にならないようにする。	10.0	-	-	継続
②乾燥装置の放熱を防ぐと同時に冷空気の吸い込みをなくする。	10.0 10.0	-	-	継続
	10.0 10.0	-	-	
③重機、車両のアイドリングは最短に抑える。	10.0 10.0	9.9	- 10.0	継続
④管理室・事務所等の暖房室温管理(冬20°C)を徹底する。	9.9	10.0 10.0	10.0	継続
⑤給湯器の給湯温度管理(30℃)を徹底する。(夏場は極力温水を使用しない)	10.0	10.0	10.0 10.0	継続
⑥キルン投入前の原土水分管理を徹底する。	10.0 10.0	_	=	継続
⑦丁寧で早い整備を行い、稼働時間を増やし、稼働中のトラブルを減らす。	10.0	-	- -	継続
<b>発棄物排出量の削減</b>				
①一般廃棄物の分別と新聞雑誌類の再資源化を徹底する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 9.8	継続
②必要以上のカタログ類は入手しない。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
③連絡事項は回覧方式を多く取り入れる。	10.0 10.0 10.0	10.0 10.0 10.0	10.0	継続
(4)物品資材は適正数量の購入を常に考え、不要な廃棄物を削減する。	10.0	10.0	10.0 10.0	継続
⑤産業廃棄物の再資源化への分別を徹底する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
⑥不良品を出さないよう注意をする。	10.0	10.0	9.9	継続
総排水量の削減	9.9	-	-	が控わりも
上水使用量の削減				
工が使用量の問題 (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	10.0	9.6	10.0	継続
②水道の無駄な出しっ放しを極力避け、バケツ利用で節水する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
③水道配管からの漏洩を点検する。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	
	10.0	10.0	10.0	継続
地下水使用量の削減 ①地下水の不要な使用は控え、使用量を管理する。	10.0	-	-	継続
②一力月に一度、給水設備を点検する。	10.0 10.0	-	-	
	10.0	-	-	継続
コピー用紙使用量・使用料金の削減	_	9.3	9.5	700 7 <del>-+</del>
①使用裏紙の再使用と両面コピーで紙の使用量を削減する。	-	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
②PC印刷は両面・印刷プレビューの確認で、ミスプリント紙を削減する。	_	10.0	10.0	継続
③コピー機の使用回数を減らす工夫をし使用料金を削減する。	-	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
L学物質使用量				
①保有試薬管理帳を備え、化学物質の保有量等を管理する。	10.0 10.0	10.0 10.0	_	継続
②化学物質の購入・使用・保管管理のルール化による徹底管理を行う。	-	10.0 10.0	_	継続
環境配慮型の製品開発の推進 フェッブ1 刺泉企画 調本・・・20点		10.0		
ステップ 製品研究開発、設計・・・60点	_	130点	_	
)環境配慮型の製品開発のステップ向上に努める。 ステップ3 試作品製造、改良・・・80点 ステップ4 上市、量産・・・100点	_	130点	_	継続
- 物多様性の推進		100m		
- 700 夕秋 住の住庭 ①採掘跡地の計画的な緑化を行う。	10.0	-	-	継続
	10.0	-	-	水上作见
地域貢献活動の実施	10,0	10.0	10.0	oni v+
①県道・市道のクリーン活動を行う。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続
②花いっぱい活動を実施し、地域の集落内にプランターを設置する。。	10.0	10.0	10.0	継続 
は会貢献活動の実施	100	100		
①新発田市が主催する社会貢献活動へ率先して参加する。。	10.0 10.0	10.0 10.0	10.0 10.0	継続

注)実績評価欄は、四半期ごとに担当者が10点満点で評価した活動に対する評点の平均値。また、環境配慮型の製品開発の推進は、平均値ではなく年度の達成点数を記入する。

### 6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無

当事業所が規制を受ける環境関連法規について、自社において遵守状況を点検した結果です。点検の結果、すべてを遵守していることを確認しました。

なお、関係行政当局よりの違反等の指摘は、過去10年間ありませんでした。また、訴訟等もありません。

環境関連法規	主な要求事項	点検結果
フロン類の使用の合理化等及 び管理の適正化に関する法律	点検の実施及び点検記録簿の保管 廃棄時には、第一種フロン類充填回収業者に冷媒フロンを引き渡す	遵守
使用済自動車の再資源化等に 関する法律	使用済自動車の引取業者に引渡、リサイクル費用負担	遵守
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出、排出基準の遵守、ばい煙量・濃度の測定	遵守
水質汚濁防止法	特定施設の届出、排水基準の遵守、排出水の汚染状態の測定	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関す る法律	「一般廃棄物」:委託の基準の遵守 「産業廃棄物」:保管基準の 遵守、委託基準の遵守、マニフェスト管理および年間状況報告	遵守
エネルギーの使用の合理化等に 関する法律	第一種エネルギー管理指定工場の届出、エネルギー使用状況の届出、エネルギー管理者の選任及び届出、中長期的な計画の作成	遵守
地球温暖化対策の推進に関する法律	特定事業者としての温室効果ガス排出量の報告、排出抑制計画の策定	遵守
消防法	危険物貯蔵所の設置許可、点検の実施及び点検記録簿の保管	遵守
净化槽法	浄化槽の保守点検・清掃、放流水検査の実施	遵守
毒物及び劇物取締法	毒劇物の表示、施錠できる施設での保管	遵守
PRTR法	第1種特定化学物質の排出量、移動量の届出、適正管理	遵守
特定工場における公害防止組 織の整備に関する法律	公害防止管理者の選任	遵守
工場立地法	敷地面積9千㎡以上、建物面積3千㎡以上は届出	遵守
新潟県産業廃棄物等の適正な 処理の促進に関する条例	産業廃棄物を処分委託する場合、委託先の処理施設稼働状況の確認・記録・ 記録の保存等の義務	遵守
新潟県生活環境の保全等に 関する条例	騒音振動の規制基準の遵守義務	遵守
新発田市公害防止条例	公害防止協定の締結	遵守
新発田市水道水源保護条例	協定の締結、水質検査の実施と結果の報告 等	遵守

### 7. 環境活動の紹介

#### 【地域貢献活動】

・クリーン活動(15名参加)

今年も継続して、9月に工場周辺道路のゴミ拾いを行いました。 毎年行っている中で、廃棄されているゴミの量が少なくなってきていると感じました。





幹線道路沿いのゴミ拾いを行いました。

#### ・花いっぱい活動

今年も継続して工場・周辺の集落内で花いっぱい活動を行いました。 今年は、プランター用の肥料を事務所脇に設置していたエコ・コンポストで作った茶殻肥料を使いました。 夏の間、日照りが続き、ちゃんと育つか心配しましたが、すべて立派に育ちました。 朝、夕の水まきは、全従業員が当番制で行いました。



植込み完了。



秋まで元気に育ちました。

#### 【社会貢献活動】

新発田市主催の大クリーン作戦へ参加 工場がある地元集落で開催された大クリーン作戦へ参加しました。 その他の従業員は居住地域で開催されたクリーン作戦へ参加しました。



工場から7名が参加しました。



#### 【環境教育】

- 緊急事態対応教育(白濁水流出) 梅雨シーズンに備え、白濁水が流出した時の対応手順について各部署ごとで教育を実施しました。
- ・化学物質教育・環境教育の実施 各部署ごとに、地球温暖化の現状及び当工場で使用する化学物質のSDSについて教育を実施しました。
- 場内作業車両の取扱い教育 工場で使用する車両の取扱いについて、安全及び、環境に配慮した運転を行えるように、外部講師を招き、安全 教育を実施しました。

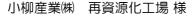




#### 【產業廃棄物処理施設現地確認】

産業廃棄物処理施設の現地確認を行いました。今年は新入社員を含む8名が参加しました。 また、処理の過程に問題はありませんでした。







#### 【事故及び緊急事態の想定訓練】

工場内で火災が発生した想定で、消防署員立ち合いのもと消防訓練を実施しました。 終了後、初期消火訓練を行いました。





#### 【環境上の緊急事態対応訓練】

• 白濁排出水 外部通報対応訓練

訓練は、白濁水が流出し、外部の通報者より電話連絡があった場合を想定して行いました。 手順書の確認、初期対応(通報対応・報告)、外部者からの通報に的確に対応することを目的としました。





#### • 重油漏洩訓練(全体訓練)

重油の漏洩を想定した全体訓練を実施しました。河川水を漏洩した重油に見立て流し、実践的な訓練を行いました。 手順書の確認、初期対応(連絡・通報・役割行動)と河川への流出防止方法の習得を目的として行いました。



防護資材による漏洩対応



側溝への流出に備え重油回収用組立水槽設置

・灯油漏洩訓練 ・軽油漏洩訓練(使用する部署ごとに実施) 工場内で使用する化石燃料が漏洩した想定で個別訓練を実施しました。 手順書の確認、初期対応(連絡・通報・役割行動)の習得を目的として行いました。



暖房用として使用している灯油がポリタンクから漏洩した想定で訓練を行いました。



工場で使用している重機へ給油中に軽油が漏洩 した想定で訓練を行いました。

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

#### (1) 代表者による指示事項

点 検 項 目		見直しによる指示事項	見直しの必要	
環境経営方針		EA21 2017ガイドラインに基づき変更しました。	☑有	□無
環境経営目標		原単位算出分母を総出荷量から総生産量へ変更 し、地下水使用量の削減について、目標値を新た に設定しました。	☑有	□無
環境経営計画		変更なし	口有	☑無
	法令遵守	特になし	口有	☑無
	苦情等対応	特になし	口有	☑無
経営システムその他	是正予防措置	・地下水の使用量について、使用量の増加により是正措置を行いました。 31年度の地下水の使用量について、環境経営目標の見直しを行いました。 環境変動による使用量の増加分を加味して環境経営目標値の見直しを行う。 ・上水の使用量について、使用量の増加により是正措置を行いました。 今後も上水道の使用量を分析し、適切な使用・管理に取組む。 ・コピー用紙使用量について、使用量の増加により是正措置を行いました。 使用量が増加傾向にある部署については再度分析を行い、ペーパーレス化を図り、削減を達成している部署は引き続き取り組みをお願いしたい。	☑有	□無
	その他	実施体制については変更なし	口有	☑無

#### (2) 代表者による総評

平成20年11月にスタートしたエコ活動も早いもので10年を経過致しました。 昨年7月には新潟県環境保全連合会より優良事業表彰を受け、この10年間の環境活動を評価して頂けたと社員一同、感謝をいたしております。

本年度も全員参加でエコ活動へ取組みましたが、夏季は日照りや異常高温により急遽、熱中症対策を実施し、冬季は、一昨年の異常低温の教訓を生かして、凍結防止対策を実施しました。結果として、環境経営目標は「地下水使用量の削減」「上水使用量の削減」が未達成となりました。また、「コピー用紙使用量の削減」についても印刷物の分析、ペーパーレス化を進めましたが未達成となりました。次年度は「地下水使用量の削減」については環境目標の見直しを図り、「上水使用量の削減」「コピー用紙使用量の削減」については、適切な使用・管理に心掛け、削減に努めるよう指示いたしました。

環境保全・環境への負荷の低減に向けた取組として、包装作業で発生していた不良品削減の為、 製品監視モニターを設置し、生産効率のアップ、産業廃棄物の削減に取り組みました。 また、熱中症対策として、屋根からの輻射熱を減らす対策を実施し、働く社員の作業環境の改善

に取組みました。 次年度についても、環境経営方針で基本理念として掲げる「環境への負荷低減に継続的に取り

次年度についても、環境経営方針で基本理念として掲げる「環境への負荷低減に継続的に取り組む」「環境との調和を図り積極的な環境保全に努める」を中心に活動を行い、社員一人一人が 環境保全の意識向上に努め、全員参加の活動を継続実施し成果に結び付けたいと考えております。